

E 体験型イベントや里山ゾーンの活用 地域・社会貢献活動

「顕微鏡で見る植物の世界」コーナー。



11テーマをめぐる「環境展示ラリー」 ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー 参加歓迎

地域や子どもたちに理工学域の教育研究と科学に触れる機会として毎年実施。2009年度には2,000名以上が来場しました。新たな試みとして環境研究のキーワードを見つけながら会場をまわる「環境展示ラリー」を開催。100名が参加し好評でした。



田んぼの中の小さな生き物」コーナー。

里山や自然のおもしろさを伝えたい! 里山サークルRacoon(ラクーン)

荒廃が進む里山の環境整備や保全を行い、本来の里山の姿を取り戻すことを目標に活動。竹林整備や竹チップを堆肥に活用した豊かな土づくりなどを行っています。



タケノコ掘りを行う「タケノコプロジェクト」のメンバー。

里山の仲間たち



里山の豊かな土に集まってきたカブト虫。

F 楽しみながらリサイクル&リユース! サプライチェーン活動

リリバック。食べたらフィルムをはがすだけで水も不要。

お得でお手軽なリサイクル 金沢大学生協の環境負荷軽減活動

生協の手作り弁当「リリバック」の容器をレジに持っていくと10円が返金、回収容器も再利用されます。また、自販機飲料の紙カップをデポジット式回収機に返却すると10円が返金されます。



紙カップのデポジット式回収機。



金沢大学のロゴが入った生協オリジナルのエコバック。環境団体への寄付や無料配布も行いました。

母校を支えるボランティアパワー! 金沢大学キャンパス環境整備の会

キャンパスの緑化や自然環境整備、会員交流を目的に、金沢大学退職者が中心となりボランティア組織を設立。パワフルに活動しています。植樹部の草刈りを行う会員。



毎年大賑わいのリユース市 学生活動

卒業生から不要になった家具を回収し、格安で新入生に提供する「学生リユース市」。実行委員は環境保護と学生支援に取り組むサークル「セカンド・ユース」のメンバーです。収益は災害復興支援などに役立てられています。

毎年3月の開催日には多くの新入生と家族で賑わいます。



金沢大学環境方針

〔基本理念〕

金沢大学は、総合大学のもつ多様性を個性的に発揮することで、21世紀の時代を担う有為な人材の育成と知の創成に努めることとしている。地域における知の拠点である本学が、このような目的をもって教育・研究・診療・社会貢献等の活動を推進するために、将来の世代と地球に対する責任を自覚し、人間と自然との調和・共生を柱とした環境方針を掲げるものとする。

〔基本方針〕

- 1 金沢大学は、本学が実施するあらゆる活動において、環境問題を意識し、環境保全に貢献する人材の育成と研究の推進に努める。
- 2 金沢大学は、本学が実施するあらゆる活動において、環境に関する法規・規制・協定等を順守する。
- 3 金沢大学は、本学の活動が環境に及ぼす影響を調査・分析し、化学物質の安全管理、廃棄物の適正処理、資源・エネルギーの使用量削減や再利用・再資源化等に積極的に取り組むことにより、環境負荷の低減に努める。
- 4 金沢大学は、環境に関わる知的成果を含むあらゆる情報を社会に還元・公開し、環境問題に対する啓発と普及に努める。
- 5 金沢大学は、以上の環境方針を実現するための総合的なマネジメントシステムを構築し、継続的に目的・目標を定め、全ての大学構成員が協力して、その達成に努める。

金沢大学長

中村信一

〔環境マネジメントシステム〕

全学がひとつとなって委員会やチームを組織。PDCAサイクルによる継続的改善と実行力アップに努めています。



金沢大学エコアクション2010
金沢大学環境報告書2010ダイジェスト
2010年9月発行

報告対象期間:2009年度(2009年4月~2010年3月)
発行:金沢大学
お問合せ先:金沢大学 施設管理部 安全環境課
〒920-1192 金沢市角間町
TEL.076-264-5145 FAX.076-234-4033
e-mail kankyo@adm.kanazawa-u.ac.jp

「金沢大学環境報告書2010」の本編は金沢大学ホームページでも公開しています。
http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_sisetu/kannkyouka/kankyo/2010.pdf

大切な地球と暮らしを守るため、
キャンパス、地域、世界をフィールドに、
さまざまな活動を展開しています。
学生と教職員がともに取り組む、
金沢大学の熱いチャレンジを紹介します。

金沢大学 エコアクション 2010

金沢大学環境報告書2010ダイジェスト

心に夢を、
キャンパスに緑を





A 注目の環境テーマが続々登場 環境教育と研究

自然の中で学生の里山リテラシーを育成 ゼミ/角間の里山づくり

角間キャンパスの里山ゾーンを教育研究に活用。里山の現状を学び、その問題解決のための知識と技術を学ぶとともに、実際に里山の暮らしや食文化、保全活動を体験しました。



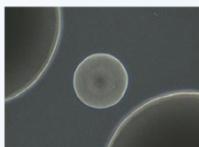
角間の里。

伐採した竹でチップをつくる学生。粉碎した竹チップからは肥料を作りました。



環境の現場から今と未来を考える 共通教育における環境教育

金沢市の戸室リサイクルセンター・埋立場・水質モニター施設を見学し、現状把握とゴミ処理問題を議論しました。埋立地の土壌から重金属イオンを代謝する微生物の分離実験にも挑戦しました。



ゴミ処理場の土壌から分離されたPbイオン存在下で生育できる微生物のコロニー。

昼休みを利用した気軽なミニ講座 ランチョンセミナー

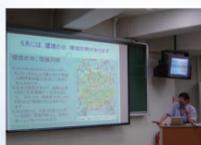
「地球を守るために私たちができることー地球温暖化中期目標の設定を見据えて」(鈴木克徳特任教授)、「里山へおいでよー角間の里山自然学校の取り組み」(中村晃規研究員)、「能登における環境保全の研究の取り組み」(堀内美緒研究員)が開催されました。



ランチョンセミナー。

国内外をフィールドに活動 環境およびエネルギー研究

人間社会・理工・医薬保健の各学域や共同研究チームによって、環境学・リサイクル工学・省エネルギー・自然エネルギー・生物多様性など多種多様な研究が行われています。



研究報告するフロンティアサイエンス機構の鈴木克徳特任教授。

環境研究 Pick Up

研究テーマ
「環境中化学物質によるアレルギー発症の機序の解明と新しい予防の開発」

医薬保健研究域では、近年増加するスギ花粉などのアレルギー疾患の環境要因を調査。フィルター開発や遺伝子診断による予防について研究を進めています。



写真

金沢大学附属病院の入口エントランスに設置された消費エネルギー量の表わすパネル。

B 活動・講演・情報紙を通じて深めよう 環境コミュニケーション

学内ネットを使った環境月間キャンペーン 金沢大学エコアクション入門 金沢大学環境報告書検定

学生と教職員がアクセスできる学内ネット「アカンサスポータル」に「金沢大学エコアクション入門」ページを開設。「金沢大学環境報告書2008」とダイジェスト版のPDFデータは多数ダウンロードされています。また、テスト機能を活用して「金沢大学環境報告書検定」を実施。「金沢大学環境報告書2008」から出される30問に約1週間で172名が挑戦しました。制限時間内に満点を獲得した4名には環境活動への理解が評価され、優秀賞が授与されました。



金沢大学環境報告書検定の表彰式。

次期リーダー125名を対象に実施 サークルリーダーへ環境活動講習

大学公認サークルのリーダー研修会で「金沢大学環境報告書2009」ダイジェスト版を配布。キャンパス内の環境美化やリサイクル活動、リユース市の開催などを紹介しました。



苗植え式。

譲り受けた志と種からグリーンカーテン! 明後日朝顔プロジェクト2009金沢in金沢大学中央図書館

金沢大学附属図書館はアーティスト・日比野彦彦氏主宰の「明後日朝顔プロジェクト」に参加。学生・教職員・地域住民100名が苗を植え、真夏には図書館の壁に美しいグリーンカーテンが登場しました。



7~8月には美しいグリーンカーテンに。

種の収穫とツルで作ったリース。



C 男女共同参画キャリアデザインラボラトリーと連携 社会パフォーマンス

里山活動を利用した学童保育支援 里山KIDS ROOM 参加歓迎

金沢大学の「男女共同参画キャリアデザインラボラトリー」では女性研究者の研究活動支援に向けてさまざまな活動を展開。学童保育支援として、家族で楽しみながら学べる里山体験メニューを実施しています。



生物・植物を観察する子どもたち

バラエティーにとんだ実験が話題に 高校へ出前講座

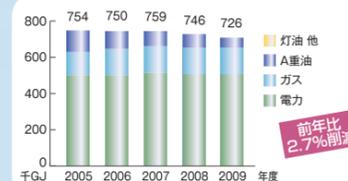
未来の女性研究者となる女子高校生に環境や科学技術への興味を高めてもらい、理工学への進路を選択してもらうため、高校へ出向いて出前実験を行っています。

D 環境負荷の少ないエコキャンパスへ! 環境への配慮

点検チーム「節約しまいか隊」も活躍 エネルギー消費の削減

夏季一斉休業、CO₂削減と健康増進を目的に月1回「はよう帰りまっし日」(定時帰宅日)等、さまざまな省エネ活動を実施しました。「SETUYAKU(節約)しまいかプロジェクト」では点検や意識改善に取り組んでいます。

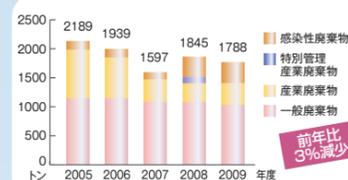
要因別エネルギー消費量



2009年に廃棄物管理の細則を施行 廃棄物の排出制御と再資源化(リサイクル)

教育研究活動に伴って発生する廃棄物(ゴミ)は分別回収を徹底し、古紙、ペットボトルはリサイクル専門業者へ委託しています。実験や診療活動で発生した産業廃棄物は環境保全センターや業者で適正に処理しています。

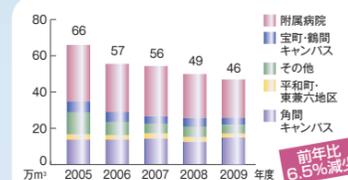
区分別の廃棄物発生量



設備改修や日頃の節水等の効果 水資源の節約

2009年度の年間水使用量は46万m³で、5年連続減少しています。

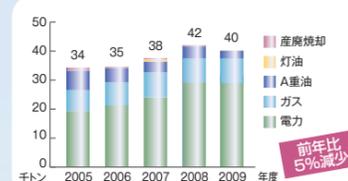
上水(市水・井水)使用量



さまざまな施策で温室効果ガスを抑制 エネルギー消費等に伴う温室効果ガス(二酸化炭素)の排出と抑制策

附属病院の焼却施設を閉鎖したため、産業廃棄物焼却に伴う二酸化炭素排出が大幅に減少しました。「100円バス」の利用と屋外緑化を促進しています。

二酸化炭素排出量



一目でわかる省エネ活動

環境マネジメント支援システム 「エネルギーの見える化システム」

電力・ガス・水・一般廃棄物など環境関連データをデータベース化して管理。学内に公開する仕組みとして「エネルギーの見える化システム」を構築しました。

【金沢大学・環境保全センター】

角間キャンパス・南地区の丘にそびえるアー型(アール型)の建物。環境保全の教育の推進、環境保全活動の一環である実験系廃液の処理を行っています。

